様式２

平成　　28 年　　11 月　　20 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）留学終了報告書

鹿児島大学長　殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1.　報告者情報

所属/学年	理工学研究科　博士前期課程　１年	性　別	男
卒業/修了予定年月日	2018 年 3 月 31 日　修了予定		

2.　留学の概要

留学期間	開始年月日	2016 年 8 月 20 日	終了年月日	2016 年 10 月 30 日
留学のタイトル		研究インターンシップ 2016		
留学の目的と概要（実践活動部分には、下線を引いて下さい）（700 字程度）				
本プログラムは以下の能力を習得することを目的とする． ・日常生活における英語によるコミュニケーショ ンが不自由なく行える． ・専門分野において英語を主なコミュニケーション手段とする環境にある大学の研究室での日常的な活動が支障なく行なえる． ・異文化を理解し，受け入れる，態度が身につける． 研究インターンシップでは，専門分野である熱流体の研究を行うが,この研究インターンシップの効果を高め，専門知識の習得を行うためには，語学力を養うことが不可欠なため下記の(1),(2)に示すように，基礎的な語学力は語学学校で習得し，実践的な語学力は研究インターンシップを通じて習得する．また本プログラムでは，自治体が抱える地域活性化に必要な課題として，肝付町を取り上げ，肝付町が抱える課題をグローバルな立場で解決するための調査研究を行う．事前学習として肝付町を訪れ，肝付町の観光資源についての調査を行った．その上で，肝付町の持つ木造校舎や空き家などをリノベーションして宿泊施設として活用し，都市部や海外からの観光客をターゲットとした観光事業を行う案を作成した．研修先のニューヨークでは，リノベーションして活用されている古い建築物などの実地調査，海外学生への取材などを行う．この調査については週末等を利用する． (1)語学研修（研修期間：8 月 22 日月曜日～10 月 28 日金曜日の平日 8:30～13:10） 実用的かつ基礎となる英語スキル（読解，聴解，作文，文法）習得や他国籍の学生たちとの英語によるオーラルコミュニケーション能力の向上をはかる． (2)研究インターンシップ（研修期間：8 月 22 日月曜日～10 月 28 日金曜日の平日午後） 専門分野である熱流体学の研究課題に現地学生と共に取り組む．ここでは，現地学生との課題解決を通じて実践的なコミュニケーション能力も養われ，異文化を理解する機会にもなる．			

3.　受入れ機関情報及びスケジュール

(1)　受入れ機関情報

	１ヶ所目の機関	２ヶ所目の機関

国・地域	アメリカ	アメリカ
都市名	ニューヨーク	ニューヨーク
機関名（英語）	The City University of New York	Kaplan International English New York Empire State, Empire State Building
機関名（日本語）	州立　ニューヨーク・シティ大学	Kaplan International エンパイアステート校
受入れ機関 URL	http://www2.cuny.edu/	http://www.kaplaninternational.com/united-states/new-york/empire-state-english-school

(2)　留学期間中のスケジュール　留学月数（　３　）ヶ月／授業料申請（有・無）

年　月	留学先機関	国・地域	主な活動
2016/8/22 ~2016/10/28	州立　ニューヨーク・シティ大学	アメリカ・ニューヨーク	エネルギー研究所の川路正裕先生の下で研究インターンシップを行う．
2016/8/22 ~2016/10/28	Kaplan International エンパイアステート校	アメリカ・ニューヨーク	General English の授業を履修．

(3)　参加したプログラム（有・無）（複数選択可）

本学の協定校交換留学		本学の協定校交換留学以外のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	GOSE2016 ニューヨーク研修
本学以外の機関による留学ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ			

4.　留学の成果及びその測定方法（300 字程度）

成果発表（論文、作品等）	○	単位取得	○	外国語能力		その他	

成果発表：研修終了後に以下の条件を満足すること．
1）研修前後に TOEIC を受験し，点数が履修前よりも明らかに高くなっていること．2）海外の大学の研究室で行った課題について英語で書いたレポートを提出すること，また英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行うこと．成績は、帰国後の TOEIC の点数，課題のレポートとプレゼンテーション、質疑応答の内容により総合的に評価する．
また，肝付町の空き家対策及び観光資源の活用について，研修先での現地学生への取材や現地調査を行い，報告書を作成する．帰国後，調査報告書は肝付町職員に提出する．

※当てはまる項目に○を付し、具体的に説明して下さい（複数回答可）

5. 上記 4.も含め、留学の目的がどのように達成できたか、留学で得たことは何か記述してください。（500 字程度）

目的達成の測定については，成果発表及び測定方法として上記した TOEIC はまだ結果が出ておらず達成状況はわからない．またレポートとプレゼンに関しても現在は準備段階である．自身の実感としては，留学を通して日常でコミュニケーションをとる上での英会話能力が向上した．具体的にはまず，以前よりリスニングの力が付き，相手の言葉を正しく聞き取れるようになった．これは英語圏での生活で次第に耳が慣れたためだと考えられる．次に，会話でよく使われる表現を多く覚え，状況に応じて使えるようになった．留学中も教科書などを用いて英語表現を学び，その表現が実際に使われているのを耳にすることでより効果的な学習ができた．また，会話を繰り返すことで以前より会話の中で思考に費やす時間が減り，よりスムーズに会話を行えるようになった．最後に，より積極的に英語を使ったコミュニケーションが行えるようになった．以前は英語を使うことにやや消極的であったが，日本語によるコミュニケーションが断たれたこともあり，臆さずに英語によるコミュニケーションを取れるようになった．

また，研究インターンシップを通して英語をコミュニケーション手段とする環境で研究を行うことへの自信がついた．研究生とのコミュニケーションは英語によって行い，英語で記載された論文や説明書を資料として研究を進めた．研究室での成果発表では，資料作成とプレゼンテーションを行い研究における英語の語学力を高めた．

6 . 留学後に行う鹿児島地域を活性化する活動について述べてください。（500 字程度）

鹿児島を地域活性化する活動を行うにあたって，今回の研修では肝付町を取り上げ，その事前調査として肝属郡肝付町を訪れた．留学前の事前調査として肝付町を訪れ，人口減少や少子高齢化による小中学校の廃校や空き家の増加など地域の抱える問題について学んだ．その一方，川上中学校の木造校舎や二階堂家の武家屋敷，ロケットの発射を見られることなど多くの観光資源を持つこと知った．留学中は留学先のニューヨークで，世界中から人が集まるその理由について調査を行った．また，日本を訪れる外国人が魅力に感じているもの不満に感じているものについて知った．東京オリンピックの開催が決まり日本を訪れる外国人はよりいっそう増えることが期待される．この機を逃さず，東京・大阪といった都市部を訪れた観光客を肝付町に呼び込むことができれば，地域の活性化につながると考え，留学の経験をもとに肝付町の持つ観光資源の活用案の提案を行った．その後発表用のポスターを作成し，肝付町長を鹿児島大学に招いて肝付町の活性化についてのポスター発表及び質疑応答を行う．

7 . 留学を今後の自分の生き方にどのように活かすか、留学成果を活用して将来鹿児島地域に貢献できることは何か記述して下さい。（500 字程度）

私は将来エンジニアとして農業機械の開発に携わり，世界で使われる製品の開発に携わりたいと考えている．そのためには英語によるコミュニケーション能力や市場となる国への理解が必須であると考える．私は今回の留学で語学学校での語学の授業と大学でのインターンシップを経験した．語学学校では多種多様な文化を持つ友達に出会い，英語でのコミュニケーションを学ぶことはもちろんのこと，時にはお酒を酌み交わし，それらを通して日本にはない様々な文化に興味を持つことができた．研究インターンシップでは語学学校で学んだことを実践し，海外出身の研究生と英語によるコミュニケーションで研究を行うことの難しさを知った．この経験はこれから就職に向けてさらに語学力を身につけなければならないという刺激となり，また大きな自信になった．将来は鹿児島の農業をエンジニアの立場から支え，鹿児島地域に貢献したいと考える．現状では人口減少や少子高齢化により農業を担う若手が減少している．それらの問題を解決するため，機械の導入によって少人数でもより生産性の高い農業を可能とし，日本の農産物が海外の農産物に負けない環境づくりに貢献したい．

様式 3

平成　28 年　12 月　19 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）
留学後地域活性化報告書

鹿児島大学長　殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1.　報告者情報

所属/学年	理工学研究科　博士前期課程　1 年	性　別	男
卒業/修了予定年月日	2018 年 3 月 31 日　修了予定		

5.　留学後の鹿児島地域を活性化する活動の概要を、留学の成果との関係がわかるように記述してください。（700 字程度）

【活動のタイトル】肝付町の地域活性化活動についての提案

【活動の期間】　2016 年　7 月　13 日～　2016 年　11 月　25 日

【活動の概要】肝付町の持つ観光資源を利用して地域活性化を図る.

鹿児島を地域活性化する活動を行うにあたって，今回の研修ではモデルケースとして肝付町を取り上げ，活動を行った．海外研修前の 7 月 13 日に事前学習として肝属郡肝付町を訪れ調査を行った．事前学習で肝付町を訪れた際には登録有形文化財指定の木造校舎が残る川上中学校，空き家を再利用した宿泊施設「きしらの家」，ロケット発射場を持つ JAXA 宇宙空間観測所，二階堂家の武家屋敷，四十九所神社周辺の武家屋敷群などを訪れ，肝付町の役場の職員の方からその歴史などについて学んだ．訪問の最後には肝付町役場で意見交換の場が設けられ，人口減少や少子高齢化による小中学校の廃校や空き家の増加など地域の抱える課題とその打開策について話しあった．また意見交換の場で，肝付町の持つ木造校舎，JAXA の宇宙空間観測所，二階堂武家屋敷などの観光資源の活用による地域の活性化の可能性について言及した．8 月 20 日から 10 月 30 にかけての留学では留学先のニューヨークで複数の場所を訪れ，複数言語に対応したサービス，施設の維持費を賄いつつ利用客の増加につながる任意の入場料，スマートフォン等の情報端末を活用した Uber のようなシステム，人々の交流の場となる屋外の利用方法といった世界中から人が集まる土地ならではの仕組みについて調査を行った．また現地で出会った複数人の外国人から聞き取り調査を行い，日本を訪れる外国人が魅力に感じているものや不満に感じているものについて学んだ．東京オリンピックの開催が決まり日本を訪れる外国人はよりいっそう増えるこ

とが期待される．この機を逃さず，東京・大阪といった都市部を訪れた観光客を肝付町に呼び込むことができれば，地域の活性化につながると考える．帰国後，留学の経験をもとに肝付町の持つ観光資源の活用について６つの案を提案し，発表用のポスターを作成した．11 月 25 日のシンポジウムの際に肝付町長を鹿児島大学に招いて肝付町の活性化についてのポスター発表による活性化案の提案及び意見交換を行った．

６. 鹿児島地域を活性化する活動の成果と今後の課題と展望について述べてください。（700 字程度）

鹿児島地域を活性化する活動として，肝付町の持つ観光資源の活用を主とした活性化案をまとめたポスターを作成し，肝付町長を含めた肝付町役場の関係者と意見交換を行った．肝付町の観光資源の活用において，今後の課題としてまず交通の便が揚げられる．肝付町には日本に２箇所しかないロケット発射場である JAXA 宇宙空間観測所など観光名所には恵まれており，また空き家を利用した民宿も備えており観光客を受け入れる体制は少なからず整っている．鹿児島市内には新幹線の開通もあり全国から多くの観光客訪れている．しかしながら，鹿児島市内から肝付町へ向かうには車で２時間ほど運転しなければならず，決して行きやすい土地であるとは言えない．また肝付町にある木造校舎の川上中学校，二階堂武家屋敷，内之浦宇宙観測所といった観光資源の数カ所を回る場合にもその移動手段は乗用車を使った移動しかない．車での移動で考えた場合も，場所においては駐車場を持たない場所もあり，観光バスなどの導入と駐車場の充実の両面でさらなる充実が求められる．また鹿児島市を訪れる海外からの観光客も増加傾向にあることから，それらの観光客を肝付町に呼び込むために，英語やアジアの国々の言語に対応したガイドブックの作成，スタッフの充実などが求められる．肝付町には今となってはあまり見られなくなったジブリ映画のような古き良き日本の風景が残っており，海外からの観光客が訪れる価値がある場所でと考える．これからも肝付町の活性化について考え，よりいっそう貢献していきたいと考える．